

職業への意識どう育てるか

昨年、自由の森学園への入学を希望する小学生の女の子と話す機会がありました。その子は「自由の森学園には動物がいますか？」と僕に尋ねました。彼女は、「銀の匙」という漫画を読んで、自由の森学園に来たくなったのだそうです。確かに学園にはネコが何匹も飼われていますが、なぜそれが受験の動機とつながるか不思議です。

どんな漫画か知りたくて、担当している講座で生徒に「銀の匙」について尋ねてみると、普段は寡黙なK君が「全巻持っている」と言い、貸してくれることになりました。K君もかなりはまっているらしく、目を輝かせてその面白さを語りました。

「銀の匙」は、北海道の農業高校が舞台の学園もの。主人公は受験勉強で自信

キャリア教育

はぐくむ

を無くし、確たる目的も無いまま入学したごく「普通」の高校生です。農業高校の仲間や教師と出会い、畜産や農業に携わることで自分を取り戻し、成長していく物語。「教育」という営みについて考えさせるマンガだと思います。特に、登壇する教師たちの存在がとても興味深いのです。

私が週1回担当する講座「林業」では、学園周辺の人工林の整備を中心に、生態系や環境の問題、林業の現状について学びます。大半は学園周辺の人工林の間伐です。秋には栃木県の足尾でフィールドワークを行います。受講生たちは、人工林は手入れをしなければ保護できないことを知り、伐採のすべてが環境破壊ではないことを学びます。2年間受講した高校3年生のうち2人が、森林に関し

てさらに学ぶため大学に進むことになりました。「銀の匙」を貸してくれたK君もその一人です。

普通科高校の学習内容は、高校卒業の時点で「何にでもなれる」知識と教養を身につけることが想定されています。大学や専門学校に進学する生徒が多いので、その準備としての学びが大きな比重を占めます。

一方、受験という目標が肥大化し、就きたい職業への意識がかすんでしまっていると感じています。近年は大学だけではなく、中学や高校でもキャリア教育が重視されていますが、こうした危機感があるのでしょうか。目的意識の希薄さをどう補うかが問われています。

改めて思います。「生身」の事物と出会いながら、その手ごたえを土台に進路を探るサポートが求められていると。

(自由の森学園理事長・鬼沢真之)